

高品質で安全・安心な米づくりは、土づくりと健苗育成から！！

高品質で美味しいお米の生産は、田植前から始まっています。土づくりの継続と健苗育成により、今年の稻作に向けて好スタートをきりましょう。

ケイ酸質資材の施用

～継続して施用しましょう～

○昨年秋にケイ酸質資材を散布できなかったほ場では、春に施用しましょう。

※ケイ酸には、割穂（カメムシ被害）や倒伏を軽減する効果があります。

○ごま葉枯病が見られた水田には、鉄を含む土づくり資材を散布しましょう。

ケイ酸質資材の施用量の目安

資材名	施用量(10a 当り)
① 有機加里入りシリカロマン2号	80kg以上
② 鉄田満太郎	100kg以上
③ シリカロマン	80kg以上
④ 砂状ケイカル	200kg



【ごま葉枯病】

③、④を施用した場合は、カリを補給するため6月中下旬に「エスアイ加里らくだ」または「エスアイ加里カリ投げくん」を施用しましょう。

有機物の施用

～堆肥散布で地力を高めよう～

有機物の施用量の目安(10a当たり)

堆肥の種類	施用量
発酵鶏ふん	75～100kg

注) 春に発酵鶏ふんを施用したほ場では基肥をチツソ成分で1～2kg/10a 減肥しましょう。

深耕の実施

～春は深耕して作土深の拡大を図ろう～

○春耕時はトラクターの速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう。

春作業に向けての安全対策

ハウスのビニール張りやトラクターによる耕起作業など、春作業による事故が発生しています。事前に危険な作業を見直し、事故防止対策を徹底しましょう。

○農業機械の点検と整備

早めにトラクター、田植機の点検を行いましょう。

⇒バッテリー充電（セル始動で確認）・エンジンオイル・ミッションオイルの量及びエアクリーナー・ラジエーター防虫網の汚れをチェック。



令和5年 春の農作業安全運動 展開中！

○突き出た鉄骨など、施設内の危険個所は、作業員みなで確認、情報共有し、クッションで覆うなど安全対策を施しましょう。

ウラに続く

育苗作業の目安

～コシヒカリ・富富富の田植は5月15日を中心～

○田植日に合わせて育苗計画を立てましょう。

○コシヒカリの育苗日数（播種した日から田植日まで）は19日以内となるよう計画しましょう。

品種	田植予定	浸種	催芽	播種	搬出
てんたかく てんこもり	5月5日	4月1日	4月12日	4月13日	4月16日
コシヒカリ	5月15日	4月17日	4月25日	4月26日	4月29日
富富富		4月15~16日			

種子消毒

○種粒は種粒袋に詰めすぎないよう、余裕を持たせましょう。

○消毒開始時は適温（12.5°C）で浸種を行い、その後は2～3日間は水の入れ替えを行わず、種子消毒の効果を高めましょう。

○処理後の消毒液は河川に流れないよう適切に処理を行いましょう。

浸種

～しっかり浸種して催芽を揃えましょう～

○浸種期間の水温は10～15°Cを確保しましょう。

○浸種積算温度（水温×日数）の目安は消毒期間を含め100°C程度としましょう。

※浸種完了の目安は、「種粒の胚乳がアメ色で透明になった頃」です。

○浸種水量は種粒重量の2倍を確保し、種粒が十分つかる程度にしましょう。

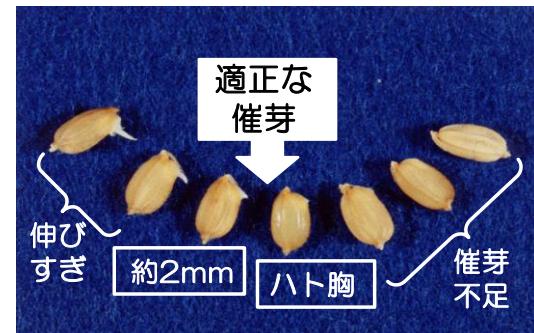
その後は2日に1回は水を交換し、種粒袋の上下を入れ替えて催芽ムラをなくしましょう。

催芽

○育苗器のサーモスタットが正常に動作するか事前に確認しましょう。

○催芽温度は30°Cで、芽の長さはハト胸から2mm程度に揃えましょう。

催芽時間の目安は18時間程度です。



播種・出芽

○播種量は箱当たり乾粒120g（催芽粒150g）です。（消毒済み種子1袋で33箱程度）

○播種時にナエファインフロアブル2,000倍液を1箱当たり1ℓ灌注しましょう。

○育苗器の温度は30°Cを厳守（30°Cを超えると病気が発生しやすくなります）し、日数は2.5～3日間を目安に、芽の長さ1cmを確認してから搬出してください。

搬出～緑化期（1葉期）

温度管理の目安

苗のステージ	緑化期	硬化期
育苗日数	2～3日 (3～4日)	13～15日 (15～20日)
温度	昼 夜	25°C以下 10°C以上

注) ()内は4月上旬に播種した場合

○搬出後のかん水は、晴天の場合は十分に、曇雨天の場合は覆土を落ち着かせる程度にしましょう。

○搬出直後でもハウス内の温度が25°C以下となるよう換気を行いましょう。

○寒冷紗等の被覆資材で遮光し、白化を防止しましょう。被覆資材は緑化後（3日以内）にはずしましょう。

○温度計は苗の高さに設置し、適切に温度管理をしましょう。

硬化期

○かん水は、原則として早朝にたっぷりとかけましょう（床土が乾くようなら日中にも追加かん水しましょう）。

○フェーン時などは、葉やケを防ぐために、床土が乾き、葉が巻く前にかん水しましょう。

○日中はハウス内の温度が25°C以上にならないように、積極的に換気を行い15～20°Cで管理しましょう。

○田植えの7日前頃からは、昼夜ともにハウスを換気しましょう。（低温や強風が予想される場合を除く）

○ムレ苗の兆候がみられたら、直ちにタチガレースM液剤を500倍で1箱当たり500mLを灌注してください。

○ご不明な点はJA高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477) までお尋ねください。